

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 26日

事業所名 放課後等デイサービス事業所 アイ.ブレイス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	2 職員の配置数は適切である	4	1	基準以上の職員配置を行っている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1	会議の中で行われている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1		保護者の意見は真摯に受け止め、業務改善に役立てる。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	2	ホームページにて公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		第三者評価は現在予定はないが、今後必要であれば検討する。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		自主参加を促し、勤務扱いや手当を支給している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		利用児本人や保護者のニーズを常に把握し、変化が生じた場合は随時計画の変更を行っている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2	全事業所で共通の様式を活用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		全職員で話し合いを行い立案している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		児童の興味関心、ニーズに合わせて計画している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		平日は個別の学習課題をメインに行っている。平日以外や長期休業中においては、調理や外出等をメインに放課後ではできないプログラムを取り入れている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		児童個々の成長過程やニーズに合わせて作成している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	3		ミーティングが出来ていない日があり、今後はきちんと行い一日の支援内容の確認を行っていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	4		ミーティングが出来ていない日があり、今後はきちんと行い一日の支援内容の確認を行っていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	2	日々の支援の中での様子や変化については、記録を取るとともに、振り返りや検証を行っている。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		定期的に会議を行うとともに、随時状況に応じたスモール会議を行っている。		

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5	ア. 自立支援と日常生活の充実のための活動。イ. 創作活動。ウ. 余暇の提供。を組み合わせ支援を行っている。	
--	----	-----------------------------------	---	--	--

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1	児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1	学校から毎月予定表をいただいている。いただいていない学校については連絡を取り、調整を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	4		該当児童なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	4	相談支援機関を介して情報共有を行っている。	情報の全体周知が上手く出来ていないことが多く見られる。今後は会議やミーティングを活用し、周知徹底を心掛ける。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3		必要に応じて今後の実施を検討したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5		保護者の心情等を配慮し、現在は機会を設定していない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5		職員の調整等行い、毎月かかさず参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	連絡帳、送迎時の引継ぎ、電話による相談や担当者会議等を通じて共通理解を図っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		5		行っているのかもしれないが、何がペアレントトレーニングに当たるのかを全体が理解しておらず、またどこまで踏み込んで良いのか分からず、上手く機能していない面が見られる。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	事前面談、契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	2	28に同じ。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4		父母の会はないが、父母の集まる場所に事業所を提供している。連携については、ニーズの把握等今後の課題である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1		迅速な対応を心掛けている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	3	事前に文書にて各家庭に配布、発信し、行事や活動についてはホームページにて掲載している。	
	35	個人情報に十分注意している	4	1	雇用契約時に文書に署名捺印をもらっている。また、年1回研修会を開催。個人情報が記載されている書類等は鍵付きの書庫等に保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	1	言葉だけでなく文字や絵カードなどの視覚的な配慮も行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	行事については、自治会を通じて地域に周知している。	招待という点ではあまり出来ていない為、今後はより地域との関係を深めていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	4		誰でも見れるようにしているが、周知徹底ができていない。今後は会議やミーティングを活用し、内容の周知徹底を図っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		各回とも消防署の協力を得て避難訓練や消火訓練を行っており、その様子についてはホームページに掲載している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1	虐待研修に参加させている。参加できなかった職員に対しては復命研修を行い、周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		5	契約時に保護者より情報収集を行い、内容を職員全員で周知徹底している。また、得た情報はいつでも確認できるようファイルして保管しており、ケース会議等でその都度確認を行っている。	現在該当児の利用なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2	報告書を作成している。回覧を行い情報を共有していくとともに、KYTなどを活用し対策を行っていく。	報告書の作成は行っているが、情報の共有ができていない面が見られる。今後は回覧の方法等工夫しながら、全体が共通認識を持っていくようにする。